

第 930 回長野県教育委員会定例会資料

飯水・中野下高井地区における教育と福祉・医療・保健・労働との連携

～ 飯山養護学校特別支援教育連携協議会の取組から ～

飯山養護学校教頭 片桐 義章

飯山養護学校の位置

- 1 住 所；飯山市大字野坂田
- 2 通学エリア；飯水・中野下高井地区 6 市町村

飯山養護学校特別支援教育連携協議会

1 目 的

飯水・中野下高井地区における特別支援教育に携わる関係者が一堂に会し、各機関の活用方法や連携方法・内容について協議し、児童生徒に個別支援計画を中心にした適切な特別支援教育が行われるようにする。

具体的には、支援地域のネットワーク形成、個別の教育支援計画のモデル開発と提示、研修・情報・相談支援システム（就学相談を含む）の構築の 3 つを目的とする。また、郡市教育会ごとの特別支援教育コーディネーター等担当者会の機能を兼ね備える。



2 連携の経過 ～ 療育支援部会と連携協議会がこの地区の子どもを支える車の両輪 ～

		療育支援部会	飯山養護学校特別支援教育連携協議会
構 成 員 及 び 目 的		北信地域障害福祉自立支援協議会（実施主体 6 市町村）6 部会の一つ。県保健福祉事務所、市町村の教育委員会や保健関係者、福祉関係者、飯山養護学校などで構成し障害のある子どもの生活を支えるための協議をする。2、3 ヶ月に 1 回開催。	飯水・中野下高井地区 6 市町村の保育所・幼稚園、小中学校、特別支援学校、高等学校が集い、特別な教育的支援を必要とする子どもの教育について協議する。療育支援部会との合同開催となっているため行政関係者、福祉関係者も参画する。年 2 回開催。
主な連携の動きと討議のテーマ			
H19	第 1 回	療育部会の初会合 「市町村の療育事業の状況」	以前は「就学指導懇談会」（～ H17）「自律教育連携協議会」（H18）と言う名称で関係機関を交えて年 1 ～ 2 回研究協議会を実施
	第 2 回 ～ 第 5 回	「家庭児童相談員の廃止への対応」 「教育委員会との連携」 「子育て支援手帳」等	第 1 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会開催（5 月） 全体会「連携・協働について」 分科会（地域ごとに実施） 第 2 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会開催（10 月） 分科会「通常学級における連携」等 3 つ。
H20	第 6 回	第 3 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（5 月）「福祉と教育の連携・協働」（特別支援教育連携協議会と療育支援部会との初めての合同開催）	
	第 7 回 ～ 第 10 回	「個別支援手帳について」 「重症心身障害児の療育支援体制」	第 4 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（11 月） 「高等学校の現状から・地域の連携」 第 5 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（2 月） 「北信圏域の連携システムはどこまでできたか」
H21	第 11 回	第 6 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（5 月） 「個別の指導計画の幼保小中高の連携」 サテライト地区会 （初開催）	
	第 12 回 ～ 第 15 回	「障害受容」「地域の療育資源」 「明石洋子氏講演会」	第 7 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（11 月） 「個別の教育支援計画の実際」 サテライト地区会

H22	第 16 回	第 8 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（5 月） 対談「個別の教育支援計画と地域の療育支援」 「サテライトの説明と実践発表」 サテライト地区会 （個別の教育支援計画、幼保小中の連携）	
	第 17 回 ～ 第 22 回	「療育教室の今後」 「不登校支援」	第 9 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（11 月） 全体会「サテライト会の説明と実践発表」 サテライト地区会 （地区の課題の明確化）
H23	第 23 回	第 10 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（5 月） 「連携協議会の経過とその役割」「各地区の取組」 サテライト地区会 （地区の課題の明確化）（高校地区会では初の中高の顔合わせ実施） 第 11 回飯山養護学校特別支援教育連携協議会（11 月予定）	

地域の課題を解決するサテライト地区会

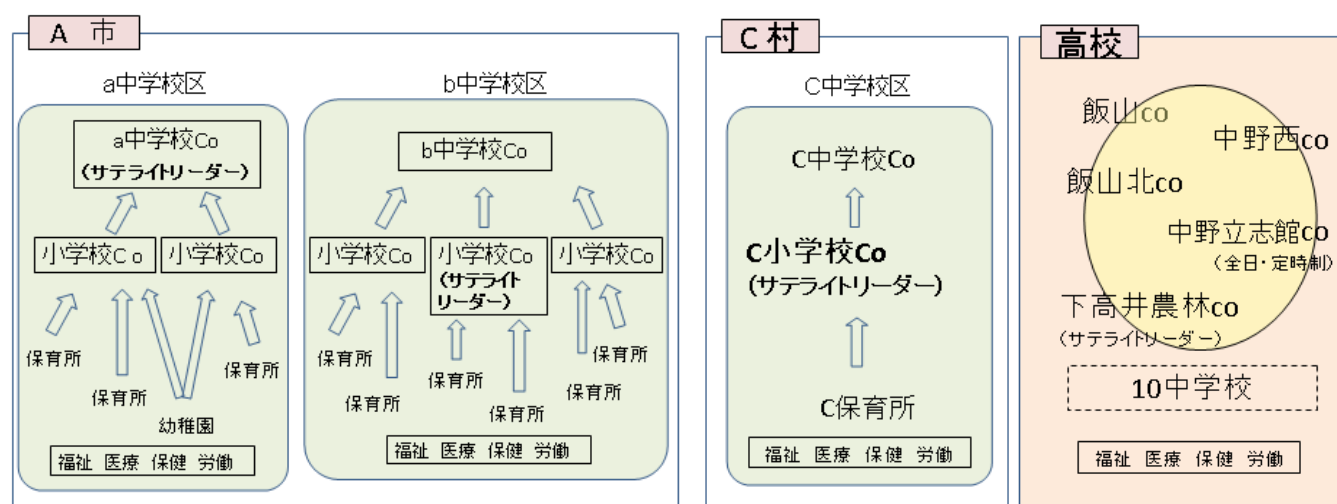
1 サテライト構想

（1）目的

飯山養護学校特別支援教育連携協議会の目的を具現するために、中学校区を単位としたサテライト地区を設置し、よりコアな単位での地域支援、チーム支援を目指す。また、サテライト地区にはサテライトリーダーを設置し、飯山養護学校と連携を密にし、サテライト地区での活動が円滑に進むようにする。



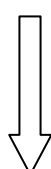
（2）構成（10 中学校区 + 1 高等学校地区）



2 サテライト地区会の取り組み

D 中学校区

サテライト地区会（H22.5 小中学校職員 5 名 保育所 2 名 養護学校 5 名）

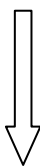


独自で年 3 回のサテライト会を計画。

保育所から小学校へ、小学校から中学校への移行支援会議を開催。

サテライトリーダーが地区内保育園児の心理検査を実施。

サテライト地区会 (H22.11 小中学校職員 5 名 保育所 2 名 福祉関係者 1 名 養護学校 5 名)



保小連携のあり方協議(保育所への心理検査実施の現状、移行支援会議への小学校職員の参加)
移行の際のプレ支援シートの書式と扱い方の検討。園長会で検討し後日報告。
個別の教育支援計画についての意見交換を実施。書式、作成対象児生の範囲等を検討。

平成 23 年度の実績と今後の予定(期日の は、サテライト地区独自で設定した会)

期 日	時間	参加者(同時開催会議)	協 議 内 容
4/8	4:00	特支 Co、家庭相談員 保健師	年間計画立案 各校の課題
5/11	4:10	特支 Co 特学担任(学校職員会)	特別支援学級の状況 不登校生・新入生の情報交換
5/20	3:40	特支 Co 家庭相談員 保育園長 町教委 養護学校(連携協議会)	移行支援に係わって 保小移行文書引継ぎ
5/30	4:30	特支 Co	中 1 生、小 1 生の入学後の様子 中学 高校の連携 年長児の個別支援計画の書式検討
6/17	4:50	特支 Co	中学校特別支援学級見学
7/5	4:50	特支 Co、特別支援学級担任	来入児 W I S C 検査実施日程調整
今後は 9 月 に「2 学期の取組の見通し」「年長児対象の個別支援計画書式の検討」 10 月、11 月は「情報交換」 12 月 、1 月 2 月に「移行支援に係わって」 特支 Co 連絡会を実施予定			

(注) 特支 Co は特別支援教育コーディネーターの略)

《 D 中学校区の実践の成果()と課題() 》

独自のサテライト会を月 1 回定期的に実施。短時間で集合し短時間で終了する会議にして、月 1 回の開催を可能にした。タイムリーに各校の課題を共有することができた。

保小中の移行に伴う情報の伝達がスムーズになり、移行先での落ち着いた学校生活に繋がっている。
サテライト地区の相談支援体制の充実に伴い、各校の特支 Co の動きが活発になり校内の支援体制が充実した。

小学校の特支 Co が保育園児の心理検査を実施。養護学校の教育相談を活用しなくても地域内での相談支援が可能になり、その子の特徴を把握し、指導に活かす有効な知見を早く得ることができるようになった。

保育所からの教育相談の依頼に伴って特支 Co の多忙さが増した。自分の学級運営に加え、校内支援体制の確立、校内支援会議の設定、保護者との相談等の業務がある上に保育所の相談を実施しており多忙さに拍車がかかっている。

3 全体の成果

(1) 地域支援システムの構築に向けて

地区内で支援マップ(関係機関の名称、電話番号等が記載されている地図)を作ることにより、新しい特支 Co でも、関係機関とすぐ繋がることのできるような体制が整えられつつある。

スムーズに移行(幼稚園・保育所から小学校、小学校から中学校、中学校から高等学校への入学)できるように、参観日程や引継ぎ計画等が含まれている地区内の年間スケジュールを作成している地区が多い。入学前に必要な情報が伝わり、入学後の適切な指導に繋がっている。新しい学校に入

学することに不安を抱いている児童生徒や保護者にとっては安心できるシステムになっている。また、入学後の様子についても情報の共有化を図っている地区が多い。

高等学校地区会では第1区で初めての中高合同連絡会を開催し、3月の合格発表後、高校3校、中学9校が参加し情報交換をすることができた。中学校から高等学校への漏れのない情報提供と業務の効率化が図られた。

高等学校地区会では就業・生活支援センターとの連携が図られ、在学中に身につけておきたいこと、卒業後の進路選択に当たっての情報収集などができた。

サテライトリーダーではなく市町村教育委員会がイニシアチブをとってサテライト地区会を運営している地区があった。そこでは、子どもの情報も教育委員会で一括管理をしている。

(2) 相談体制構築に向けて

サテライトリーダーが地区の保育所からの要請で園児に心理検査を実施し、迅速な教育相談を行うことができた地区が1地区あった。

村就学指導委員会に特支 Co が就学指導の調査委員として該当児の心理検査等を実施し、就学指導委員会への報告を実施した地区が1地区あった。

(3) 個別の教育支援計画作成に向けて

地区の実情に沿った個別の教育支援計画を作成し、地区内の共通ツールとして活用する地区が増えている。新たな書類を作成する手間が少なくなったと好評である。

(4) その他

地区ごとに独自にサテライト地区会を開催し、個々の子どもの情報伝達や地区の課題解決に向けて自主的自立的に動く姿が多く見られるようになった。郡市校長会の後押しがあることも有り難い。地区内の連携システムを作る中で、それぞれの学校の情報が共有でき、特支 Co としての力量も高まり、それぞれの学校の校内支援体制も高まってきた。

4 課題

- (1) サテライト地区の活動は、どうしてもサテライトリーダーに負うところが大きい。自地区の課題の見極め、資料作成、連絡調整等、様々な業務をこなしながら自校の職務も全うしなくてはならず負担が大きくなっている。業務軽減とともに、県の報告にあった中核的な役割を果たす専任の特支 Co の配置を期待したい。
- (2) 小中学校、高等学校の参加者は各校1名以上の参加がある。しかし地区によっては幼稚園、保育所の参加が少ない地区があり、会の必要性の理解促進と出席しやすい体制整備が必要である。特に教育委員会と保育所を管轄する担当課の連携を進める必要がある。
- (3) 地区によって課題への取り組み方に差がある。情報交換、意見交換で終わらないように、幾つもの課題の中から、解決しなければならない課題を明確にし、課題解決型の協議にし、連携システムの構築を図りたい。
- (4) 人事異動によるメンバーの変更に伴って積み上げられたものが無くならないように、記録を累積し、システムとして機能させる必要がある。